

---

# 大切なものを守る為だけに

零

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大切なものを守る為だけに

### 【Nコード】

N3337Z

### 【作者名】

零

### 【あらすじ】

俺は幼いころに誓った

大切な人を守るために強くなろうと

誰にも負けないような強さを手にいれよう

そう俺は誓ったんだ…

## プロローグ1（前書き）

どうも零です（＾－＾）ノ

最初に一言

どうもこの小説を見てくださりありがとうございますとづいぞいます！

駄文ですが読んだら

アドバイスや感想などくれたら作者は嬉しいです！

## プロローグ1

5年前

俺は学校の帰りに公園で沙耶と遊んでいた

『待つてよ〜智くん〜』

『早くこいよ〜沙耶』

『だつてえ……』 『G U U U U……』 え……きゃー!!』

『え!?!沙耶!?!』

遊んでいる最中に

突然魔物が沙耶の目の前に現れたんだ

『ダメ!智くん来ちゃダメ!?!』

俺は沙耶を助けようと

沙耶のところへ行こうとしたが

沙耶がそれを止めた

『だつてそれじゃあ沙耶が!』

『いいから逃げて!?!』

俺は逃げたくなかった

だが俺はまだ10歳

魔法もろくに使えなけりゃ武器もない

その俺が魔物に挑んだとしても勝ち目はない  
と俺が考えていたときに魔物が沙耶を爪で切り裂こうと腕を振り上  
げていた

『G a a a a a a !』

『きゃー!!』

沙耶は悲鳴を上げて  
その場に座り込んだ

『くっ…そー!』

俺は必死に走った  
間に合ったところで

俺には魔物の攻撃を受け止める術はない  
だがこのまま沙耶が魔物にやられるのを  
呆然と見ていることは出来なかった

ザシュッ

『ぐうう…!』

間に合った  
だが俺は魔物の攻撃をもろに受け  
腹部を爪で切られた

『智くん!?!』

『大…丈夫…か?』

『私は大丈夫だけど智くんが!』

沙耶が無事なのがわかって一瞬ほっとしたが  
魔物がいなくなった訳ではない  
そう思った俺は沙耶に言った

『俺は…いいから…さっさと逃げる…』

『嫌っ!!智くんを置いて逃げるなんて嫌っ!!』

沙耶は泣きながら首を横にふった

『バカ!死にたいのか!』

『だつて…』

『G a a a a a a!』

喋っているからと言って魔物は待ってはくれず  
沙耶に飛びかっかってきた

『沙耶!』

『えっ…きゃっ…』

沙耶はその場にしりもちをついたおかげで  
怪我はなかったが  
魔物は沙耶の隙をみて  
再度攻撃をしてきた

『沙耶ー！』

俺は叫んだ

動いて沙耶を守りたかった

でも身体は動かず動いたところで

また切られ今度は死ぬだろう

『沙耶！早く逃げろ！』

（くそ！

動けよ！動けよ俺の身体！

動いて…くれよ…）

そう思ったときだった

俺の頭の中で声が聞こえた

（面白いことになってるな）

（な…なんだ？声が聞こえる…）

（お主力が欲しいか？

お主が望むなら力をやるう）

（本当か…？）

（ああただし私と契約しろ）

（契約？）

(ああでどろする?)

(…する、契約する!)

(ふふ…わかった)

それじゃあひとまず此方に来てもらっぞ

(え…?)

その声を聞いた瞬間  
俺は黒い空間にいた

『な…なんだ此処』

『ここは私の世界だ』

『え…』

声が聞こえた

その声はさっき聞こえた声と同じ声だった

俺は声が聞こえたほうを向いた

『うわあ…綺麗…』

その声の持ち主は凄く美しかった

白い髪に紅い目、そして透き通るような白い肌にととった小さくて  
綺麗な顔

彼女の全てが美しかった

『ん?どうした?』

彼女は首を傾げて聞いてきた

『いや、ただ凄く綺麗だったから…』

『なっ…何をいきなり言うんだ／＼！』

『いえ、そう思ったので  
嫌かな？』

『嫌ではない…』

『なにか言いました？』

『何でもない／＼！』

『こほん…さて話を戻そう』

『ああうん、契約？だったよね』

『ああ』

『するよ』

『契約って言うのはよくわかんないけど  
今は力が欲しい』

『そうか、なら始めよう』

彼女がそう言った瞬間

俺と彼女の下に魔法陣が現れた

『なにこれ』

『これは使い魔との契約に使う魔法陣だ』

『使い魔？』

『使い魔と言うのはまあパートナーみたいなものだ』

『ふうーん』

パートナー、相棒ね

『契約するにはいろいろ方法があるが急いでいるから一番手っ取り早い方法でやろう』

その方法がどうやるか聞きたいけど  
もっと気になることが一つある

『あの契約するまえに一つ聞いていい？』

『なんだ？』

『なんでそこまでしてくれるの？』

『それはお主に素質があったのと…』

彼女が俺の前から消えた

そして…

『私が気に入ったからだ』

彼女は俺の目の前に現れ…  
キスをしてきた

『んっ！？』

魔法陣が輝き出した

『ぶはっ…これで契約は終了した  
私の名前はセラフイム・アルバート  
セラッと呼んでくれこれからよろしく主  
』

『あっ…ああ』

ファーストキスが奪われた…

『ちなみに私も初めてだ／＼』

そうなのか…って

『ちょっと待ってもってなんだもって』

『あっいやぁ…その…別に主のことを小さい頃からずっと見ていた  
訳じゃないぞ？』

はぁ…

『ずっと見てたのか』

『あっ…うっ…うん／＼』

なんだこいつ  
いまさっきまで凜々しかったのに  
いまは凄く可愛いぞ

『ごめんなさい...』

『よしよしノシ  
怒ってないから元気だせ』

『うん』

さてと本題に移るか

『セラ俺はどうやってあれを倒せばいい』

『それはこれを使って』

そう言っつてセラは指輪を差し出してきた

『これは無月』

『無月?』

『うん、これは主が望んだ姿になる  
剣を望めば剣になり盾を望めば盾になる』

『へえ、あともう一つ素質って?』

『素質というのは魔法の素質だ』

私は闇の精霊でな  
主が闇属性の素質があったから

『なるほど』

さてじゃあ行くかな

『さてじゃあ行くな』

『ああ今元の場所に戻す』

『ああわかった』

『今の主は私と契約したから身体能力があがっている  
あの程度の魔物など敵ではない』

俺の身体が光出した

『では頑張ってくれよ主』

シュン

帰って来たのか

『G a a a a !』

ヤバい

魔物が沙耶に飛びかっかっている

『無月!』

俺は刀を思い浮かべた

すると俺の手には刀が握られていた

『いくぞ!』

俺は全力で走って沙耶の前にきた

『G a a a a a!』

『ぐう!』

『智くん!?!』

俺は魔物の攻撃を止めた

『はあ!』

そして魔物が後退した瞬間に切り裂いた

『G a a a a a a a a a!』

魔物は唸り声をあげ絶命した

『勝った...』

そう思った瞬間に俺は倒れた

『智くん！智くん！』

そして沙耶の声聞きながら  
俺は意識を失った…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3337z/>

---

大切なものを守る為だけに

2011年12月11日15時51分発行